

令和2年(2020年)6月21日 (日曜日)



J T主任研究員(右)から試験栽培3品種の苗の特徴を聞く参加者たち=三島市松本

# 新銘柄米 登録申請へ

## GW三島が田植え作業

### 3カ年計画最終年 「水の都の宝に」

源兵衛川の清流で育つ新たな「三島のブランド米」づくりに取り組むNPO法人グラウンドワーク(GW)三島は20日、三島市松本の水田で、本年度の田植え作業を行った。今年には2018年から3カ年計画で進める「新銘柄米」づくりの最終年で、10月ごろを目標に農林水産省に登録申請を行う。新たなブランド米として、年度内

(来春まで)の登録を目指すとしている。計画には「松毛川の森を守る活動」などを通じて活動を共にする、日本たばこ産業(JT)植物イノベーションセンター(磐田市)が協力。試験栽培には同センターで保管していた種を活用し、病気に強く、玄米の粒の大きさに定評のある品種など3種類を用いた。

「世界かんがい施設遺産・世界水遺産」に登録された源兵衛川と、その清流が流れる中郷地区に新たなブランド米を誕生させる狙いがあり、3年間で徐々に試験エリアも広がった。今年には松本、梅名の両地区計40㌦で栽培する。今後「産地品種銘柄」として申請、登録し、順調なら2021年産の収穫米から市場流通させたい考

え。

同NPOは「水の都、三島の新たな宝物、誇りにしたい。子どもたちの学校給食などでもぜひ、食べてもらいたい」と展望を語る。